

# 「家がいいね」 第67号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2009. 12. 7

## 御師が走る

師走Ⅱ「師が走るほど忙しい月」と語感で思っていた。では、いったい師とは誰だろう。俗説のようにお坊さん？ 教師？ まさか医師？

伊勢神宮の御師（おんし）が、その師であると言う説を最近知りました。元は「御祈禱師」を略した伊勢御師は全国各地に派遣され、現地の伊勢講の人たちの世話を行うとともに、彼らが伊勢参りに訪れた際には自己の宿坊でこれを迎え入れて参拝の便宜を図ったのです。12月は、御師が、神宮大麻や曆、神札を配るために各家を走り巡る忙しい月でもあったらしい事は事実です。

## 我々は 誰もが 巨象をなでている

盲目の人々が象に取り付いて、それぞれの印象を述べている図です。誰かが間違つて、誰かが正しい訳ではない。全体像を知るためには、お互いの印象を謙虚に伝え合う事が大事だと思う図です。



北斎漫画から

しかし専門家と言う人ほど、全てを知っているかのように他者を非難する。上に立つ人や医師は自分も盲目の一人に過ぎないと考えるべきです。

写真を一緒に撮らせてくださいな

エンディングノートを少しずつ書くかと思った時、自分が残す写真は自分で選ぼうと思いました。



日本に最初に写真機が伝わった時には、魂を抜かれるかもと、そこそ命がけて写真を撮ったようです。何十分も動けない覚悟やこのような机などの道具立ても必要でした。

私がイイと思った写真は、他の人と一緒に気持良く談笑している時です。何度も撮って男の顔も磨かなければ、良い表情は残せません。往診の時に、今後は一緒に写真に納まってくださいませ。

覚悟は他人から言われると出来ないもの

今度は、最期まで自宅まで過ごそうと思う場合の覚悟についてです。半世紀前の臨終は、見て触れて介護して経験しなければならぬものでした。今の逆に、亡くなる人の8割が自宅だったからです。戦争の惨禍も含め、死が身近な事でした。

今の世は、死を汚れるように遠ざけるのは容易です。しかし避けられない自分の死を考える事は極めて不安でしょうがない事に替わりました。

「どんな事でも自分にもおこりうる」これが私の小さな覚悟です。日常的な小さな覚悟を積み重ねつつ毎日を生きる。筋の通った覚悟でなくてもツギハギだらけの覚悟が丁度いい加減ですね。

年末年始のお休みですが、

12月28日(月)までは平常どおり

**29日(火) ~ 1月3日(日) 休診**

新年1月4日(月)からは平常どおり

この間も訪問患者さんへは24時間対応です



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)

<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>